

関西理学療法学会 一日研修会 リクエストセミナー

『トップダウン評価の学生・新人セラピスト指導』

神戸リハビリテーション衛生専門学校 研究教育センター

高橋優基 前田剛伸

関西医療大学 保健医療学部 理学療法学科

福本悠樹 東藤真理奈

理学療法士は寝返る、起き上がる、立ち上がる、歩くなどの日常生活をおこなううえで基本となる動作の改善を目指す「動作の専門家」です。神戸リハビリテーション衛生専門学校および関西医療大学では「治せるセラピスト」を養成すべく、トップダウン過程での理学療法評価において「姿勢・動作分析」の重要性を指導しています。また、神戸リハビリテーション衛生専門学校は「研究教育センター」を設置し、関連グループ施設に所属する新人理学療法士を対象に、卒後教育をおこなっています。この研究教育センターは、姿勢・動作分析に基づく理学療法の効果を、学会で発表することを目標にしています。

本セミナーでは、まず姿勢・動作分析を学ぶうえで重要となる「動作の実用性と関節運動および生活との関連」、「動作のストーリーと問題点の仮説」、「症例の動作分析における指導時の工夫」に関して、学生や新人理学療法士を指導する際に工夫している点を紹介いたします。つぎに、学生指導から新人・中堅理学療法士への段階的な教育といった卒後教育の実態と課題について解説いたします。効果的な指導方法や臨床スキルの育成、継続的な学びに繋がる OJT や院内研修の重要性について、広島県や東京都での卒後教育の実態調査の結果を踏まえて紹介いたします。また、動画教材の活用や、動作分析を通じた臨床推論能力の向上の重要性、チームカンファレンスや研究班の設置が教育とスキル向上にどのように影響するかを考えたいと思います。

本セミナーを通して、皆様よりご意見をいただき今後の両校での指導に活かしていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。